

## ノダとワケダから見た国会議員の語り方について

伊土 耕平

ノダとワケダ（ともにモダリティ形式）の使用率によって、国会議員の語り方をA～D型の四つに分類する。それぞれの特徴は、まず両者の使用率が高いA型は、硬軟織り交ぜた語り方である。ノダの使用率のみが高いB型は、問題点などを主観的に強調し、一方的に語るタイプである。B型は質問者に多い。両者の使用率が低いC型は、淡々と語るタイプである。ワケダの使用率のみが高いD型は、問題点、あるいは、すでに実施されている対策などの存在を、客観性を強調して提示・説明しようとするタイプである。答弁者はC型が多く、D型がそれに次ぐ。

**Keywords** : 国会会議録, 「のだ」, 「わけだ」, 提示, 説明

### 1. はじめに

筆者は国会討論（具体的には衆／参議院予算委員会）の文字化テキストを用いて、ノダとワケダ（ともにモダリティ形式）の使用実態を分析してきた。まず拙稿2010において、質問者がノダを多く使い、答弁者がワケダを多く使うことを明らかにした。言わば、ノダで攻め、ワケダで守るのである。これは2009年8月の、いわゆる政権交代の前の話なのであるが、政権交代後においても、質問者がノダを多く使う傾向は変化がなかった（拙稿2011）。つまり、人間が入り代わったにも関わらず、質問者という立場では同じようにノダを多く使うのである。これはなかなか興味深い事実である。しかしワケダについては、政権交代後の民主党政権では使用率が下がってしまった。よって、ワケダで守るとは、あまり言えなくなってしまった（民主党政権は、交代前の自民政権に比べて淡々と語る傾向が強いのである）。

さて、本稿では個人の語り方に注目する。ノダとワケダの使用率によって、国会議員の語り方を四つに分類するのである。すなわち、両方の使用率が高いA型、ノダの使用率のみが高いB型、両方の使用率が低いC型、ワケダの使用率のみが高いD型である。それぞれの語りの特徴を記述するのが本稿の目的である。

なお、以下では「のです」「のであります」「んだ」「んです」などを一括し（ノダと表記）、「わけです」「わけでございます」などを一括する（ワケダと表記）ことにする。

### 2. 先行研究

本論に入る前に先行研究を概観しておく。前稿にも述べたのでここでは必要最小限にするが、まず、ノダとワケダを対照的に研究したものの中で、よくまとまったものとして、宮崎他2002 (p.239ff) と、ほぼ同じメンバーによる日本語記述文法研究会（以下「記文研」）編2003がある。後者のほうが標準的であると考えられるので、ここでは後者による。

そこでは、ノダ・ワケダともに「説明のモダリティ」を表し、説明のモダリティとはその文と先行文脈との関係づけを表すものである、とされる (p.189ff)。

それぞれの用法について、まずノダは「関係づけ／非関係づけ」「提示／把握」という二つの軸によって分類される。国会討論においては提示・非関係づけ用法が多いが（例：「じつは○○という問題があるんです。」）、これは「すでに定まっているが聞き手は認識していない事態を提示し、認識させようとする」ものである (p.201)。なお、以上の枠組は野田1997 (p.67など) を踏まえている。

一方、ワケダは論理的必然性のある帰結や結果を提示／把握することを表す。その論理性がやや低くなると「換言」に近づき、さらに低くなると「話しことばなどで軽く用いられ、その文の内容がたしかに存在することを聞き手に示すような用法」となる（例：「私、ぜんぜんわかんなかったわけ。」）。

この、最後の用法が国会討論では多いが、この用法については、はやく寺村1984（p.285）が次のように述べている。

P→Qという推論の過程は示さず、Qということ、自分がただ主観的にそう言っているのではなく、ある確かな根拠があつての立言なのだということを言外に言おうとする言いかた。乱用すると独断的な、押しつけ的な印象を与える。

寺村は「確かな根拠があ」とし、記文研2003は「その文の内容がたしかに存在する」、さらに宮崎他2002（p.237f）は「客観性の付与」であるとする。国会討論のデータを見る限りでは、客観的事実が確かに存在することを強調する例が多い。つまり、寺村など三者の意見を混ぜたような考え方である。

また、記文研2003によれば、ノダとワケダは多くは置き換え可能であるが、不可能な場合も少なくない。それは例えば以下のような場合である。

ノダのみ＝言語化されていない状況について、その事情を提示する。

ワケダのみ＝すでに認識していた事態について、その事情を知り、必然性を納得する。

これらは国会討論においてはほとんど出現しない。討論は言葉で明示的になされるものであるし、討論中に「納得」することはあまりないからである。逆に言えば、国会討論において、ノダとワケダはほとんど置き換え可能であると考えてよい。ここに両者を対照させて観察する根拠の一つがある。

ノダとワケダを対照させた研究では松岡1987、同1993が有名である。そこでは、ノダ・ワケダとも二つの事柄の関係を認定するものであるが、ノダは話し手の責任において主張するとき、ワケダは話し手が納得するときを使う、と説明している。が、上述のように国会討論でのワケダを「納得」という言い方で理解するのは難しい。

以上、文法的な研究は多い。しかし、ノダとワケダを個人の語り方に関係づけようとする、言わば文体論的な研究は、管見の限り、ない。本稿では、国会討論における語り方をノダとワケダによって特徴づけようとする。

### 3. データと方法について

本稿で使用するデータは、拙稿2011のものと同

じである。すなわち、「国会会議録検索システム」（<http://www.kokkai.ndl.go.jp/>）からダウンロードしたテキスト・ファイルで、それぞれその日の議事内容全部である。日付と衆／参議院の区別は以下のとおり（091106=2009年11月6日の意）。

#### (1)資料とした議事録

鳩山由紀夫内閣：091106 参院, 091109 参院, 091110 参院, 100226 衆院, 100301 衆院, 100302 衆院  
菅直人内閣：101101 衆院, 101108 衆院, 101109 衆院, 101118 参院, 101119 参院, 101126 参院

二人の総理大臣それぞれにつき6日ずつ、かつ、衆議院と参議院では所属議員が異なるので、両院から採取したのである。いずれも予算委員会であるが、そこでは実際の政策をめぐる野党が鋭く対立する。なお、日付に特に意味はない。

ダウンロードしたテキストを、句点ごとに改行し、表計算ソフトに読み込み、一文一行の形式にする。このとき、議長や参考人など、議員・大臣以外の人の発言は除外する。

次に「んです」「ただけれども」などの形を検索し、数えていく。一文一行の形式のほうが、「んです」などを発見しやすく、また、字数の計算もしやすいのである。

なお、「のですか」「のでしょうか」「わけであれば」「わけではありません」「わけだった」「んですね?」などの疑問形・推量形・仮定形・否定形・過去形・念押し形の形は除く。いわゆる説明のモダリティを直接的に表わす例を採取の対象とするのである。よって「んです」などの終止形と、「のだから」「わけできて」などの、あとに続く形の一部とを採ることになる。また、引用文中にあるものも、発話者自身の言葉ではないので採らない。

その後、発言者別にノダ／ワケダの個数と字数を集計する。字数には、句読点やカギカッコなども含む。なお、菅直人氏については内閣府特命担当大臣のときと総理大臣のときとを別々に集計した。また、福島みずほ氏は大臣つまり答弁者であったが、民主党が内閣を離脱し、質問者となった。この場合も別々に集計した。拙稿2011で述べたように、同一人物であっても、質問と答弁でノダ／ワケダの使用率が変ることが多いからである。

最後に、政権には他の党の議員を含むこともあるが、以下では便宜的に、例えば「民主党政権」などと呼ぶことにする。また、肩書は、すべてその当時のものである。

4. 結果と考察

4.1 概観

まず、ノダ／ワケダ使用率の12日間全体の平均は(2)のようである。使用率とは、100字あたりのノダ／ワケダの個数である。これらのもととなる数字については、下表の総計欄をご覧ください。なお、このデータは、ある程度発言量（ここでは字数）の多い人（仮に3000字以上とした）のみを集計したも

のである。のべ98名となった（上述のように、菅氏と福島氏はそれぞれ2名と数える）。

(2)全体の平均値

ノダ 0.23（標準偏差 0.24）

ワケダ 0.12（同 0.11）

次に、質問者／答弁者別の使用率は、(3)のよう

表. A～D型の典型的議員

型	発言者(政党名)	ノダ	率	ワケダ	率	合計字数
A	小池晃(共産)	25	0.59	11	0.26	4249
A	坂口力(公明)	40	0.49	20	0.25	8090
A	谷合正明(公明)	20	0.48	10	0.24	4161
A	宮沢洋一(自民)	52	0.48	38	0.35	10844
B	脇雅史(自民)	142	1.16	5	0.04	12198
B	片山虎之助(たちあがれ)	43	1.09	2	0.05	3930
B	木庭健太郎(公明)	63	0.72	4	0.05	8809
B	荒井広幸(自民)	69	0.68	2	0.02	10086
B	棚橋泰文(自民)	46	0.61	1	0.01	7594
B	赤澤亮正(自民)	54	0.59	1	0.01	9079
B	小野次郎(みんな)	45	0.59	3	0.04	7649
B	市田忠義(共産)	22	0.55	0	0.00	3983
B	加藤紘一(自民)	60	0.55	2	0.02	10937
B	林芳正(自民)	55	0.50	4	0.04	10995
C	友近聡朗(民主)	5	0.05	2	0.02	11022
C	大島章宏大臣	2	0.04	2	0.04	4924
C	高木義明大臣	1	0.03	0	0.00	3333
C	原口一博大臣	1	0.03	1	0.03	3475
C	柳田稔大臣	2	0.02	3	0.03	10549
C	松本龍大臣	0	0.00	1	0.02	5229
C	桜内文城(みんな)	0	0.00	0	0.00	3153
D	田中康夫(新党日本)	3	0.02	35	0.29	12237
D	鹿野道彦大臣	1	0.01	24	0.32	7617
D	松原仁(民主)	0	0.00	12	0.31	3828
	上記以外・計	1848	0.19	1184	0.12	958706
	総計	2599	0.23	1367	0.12	1136677

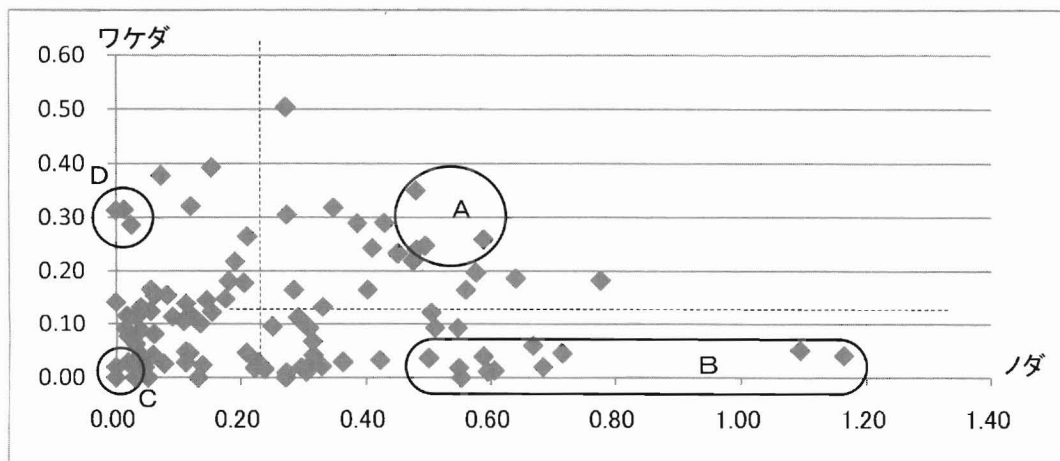


図. ノダとワケダの使用率の分布

ある。集計方法が多少異なるのだが、拙稿2011のデータとほぼ同じとなった。質問者のノダ使用率が高いこと、答弁者の中で見ればノダよりもワケダの使用率のほうが高いこと、に注意されたい。

### (3)質問者／答弁者別の平均値

質問者： ノダ 0.35, ワケダ0.13

答弁者： ノダ 0.07, ワケダ0.11

今回対象となった人すべてについて、ノダ使用率を横軸、ワケダ使用率を縦軸に配してプロットすると図のようになる。図中に(2)の平均値を点線で記入してあるが、大まかに言えば、その線の右上がA型（ノダ・ワケダともに高率）、右下がB型（ノダのみ高率）、左下がC型（ノダ・ワケダともに低率）、左上がD型（ワケダのみ高率）となるわけである。

そのうち、平均値からなるべく離れている人を選んで典型とみなすが、高い方については平均値から標準偏差分以上離れていることを基準とした。低い方は、標準偏差分を平均値から引くとマイナスか、それに近くなってしまうので、仮に、ノダ・ワケダともに0.05以下とした。

リストアップの結果は表のようになる。表はA～Dの型別に、同じ型の中ではノダ使用率の高い順に、並べてある。図では、A～Dに属する人をマルで囲んだ。

以下、型ごとに例を挙げて、語り方について観察しよう（例文中のカギカッコ内は筆者による補足説明と出典である）。その人のイメージが浮かびやすいように、例にはなるべく有名な人を選ぶ。

## 4.2 具体例による考察

### A型（ノダ・ワケダともに高率）

先行研究に従えば、ノダ・ワケダともに提示機能を持つ。さらに、ワケダはその文が表すコトが客観的に確かに存在することを含意する。そのワケダに比べれば、ノダは主観的といつてよいだろう。それら両方を多く含む語りは、主客混交の語りとなることが予想される。

具体例を観察してみよう。表のAの中では坂口力議員（公明党）が、厚生労働大臣も務めたこともあり、有名であろう。下に発言の例を挙げるが、このときは野党側で質問者である。氏の、ノダの平均使用率は0.49で質問者（＝ノダが高率）の平均(3)よりも高く、ワケダも0.25と高い。下に引いた部分は、562字にノダが3個（100字あたり0.53。以下同じ）、ワケダが2個（0.36）で、氏の特徴が出ていると思われる。

(4)きょう、亀井大臣にわざわざお越しをいただきましたのは、去年の七月ごろ、国民新党の方が民主党からいろいろと年金の制度のことについてお聞きになっている。それはオープンでおやりになったものですから、そのペーパーが出ておまして、私は、もう昨年になりますけれども、それを拝見させていただいて、なるほど、国民新党はいいところをついて質問をしているなど実は思った。わけです。その一つは、自営業の皆さん方や農業の皆さん方は全額払わなければならないことになりますね、しかも、保険料は収入の一五％ということになっている、これは払えますかねというお話が質問として出ている。亀井大臣はそのときにはおみえにならなかった。もう一人の、幹事長の亀井さんと自見さん、その他四、五人の方が出ておみえになった。

こういうことですが、この一元化というのは、一見していいように思う。んですけども、今まで違う路線を進めてきたものを一つにしなきゃならない。わけですから、同じ所得があったら同じ財源を払います、こういうことが書いてはある。んですけども、同じ所得でも、一方の自営業や農業の皆さん方は倍払わなきゃいかぬですね。もらう年金の額は一緒な。んです。保険料は倍払わにゃいかぬということになる。それに対していろいろ御意見が出ておりましたが、ちょっと御意見を伺いたい。

[100226衆院]

用法を確認していくと、まずaのワケダは、「実は」とあるので提示用法であることは確かである。さらに「自分が思った」という過去の出来事を確かに存在すると強調する意味もあると思うが、それは言い換えれば、自分の行為を客体化することである。そのような表現は国会など、公の場でしばしば使われる。例えば、「調査しております」と言えば済むところを「調査しておるところであります」などと言う。自分（達）の行為を客体化して表現し、間接化し、ノダに比べ、穏やかな印象がある。

b, d, eのノダは問題点を提示している。すなわち、bは「一見すれば、よい」、dは「書いてはある」、eは「保険料を倍払っても年金の額は一緒」という問題点を、ワケダよりも主観的に提示している。cのワケダも「違うものを一つにしなくてはならない」ことを提示しているが、「誰が見てもそうしなくてはならない」という意味合いで客観性が付与されている点、ノダに比して穏やかに説明しているように思われる。なお本稿においては、「説明」という語を“事情などを穏やかに相手に理解させる”という意味で使用する。先に見た記文研の“関係づけ”と

いう意味では使用しない。

以上をまとめれば、坂口氏の語り方は、主観的な提示と穏やかな説明とが混ざった、硬軟織り交ぜた語り、となる。

もう一人、宮沢洋一議員（自民党）の発言を挙げよう。氏は宮沢喜一元首相の甥にあたる。使用率の平均はノダが0.48、ワケダが0.35で（表より）、ともに質問者の平均(3)より高い。下に引用した部分は、724字中にノダが3個（0.41）、ワケダが2個（0.28）で、氏の平均とだいたい同じである。

(5) [尖閣諸島問題。] 私は、総理はこの私の質問に立ってからずっと起きていられたとばかり思っていた。んですけれども、どうも全部聞かれていなかったような。といいますのは、今この処分請訓規程は、最初は私は柳田大臣に中身の説明を求めて、柳田大臣が答弁された。わけです。私が勝手に申し上げているわけではない。んです。そして、私がずっと申し上げてきたのは、内乱罪、外患罪もあるけど、外国の使節に対する罪というものもありますねと、そういうものとの比較においてどうですかということを申し上げて、そして総理に答弁を求めた。わけですが、それはなかなかすぐに総理としてもうんと言える話ではないでしょう。しかし、今回の話が、大臣いろいろ右往左往されていますけれども、まさにそういう処分請訓規程という、当初はこれはもう戦後、昭和二十三年ですから、もう一回見直してもいいんだらうと思います。そのときにできた、指揮権発動をまさにどうしてもやらなければいけないケースを定めた訓令ですよ。こういうものがあって指揮権発動しなければいけない場合があって、そういう場合に比べて、どう考えても我々国民からすれば、決して、それに比べてこの方が軽いじゃないか、日本の国にとって重要でないんじゃないかというよりは、はるかに日本の外交に、安全保障に、まさに前原大臣が一番気になされている日本の安全保障、そして日本の主権に一番に響くような話だったにもかかわらず残念な結果になっているから、そうならないように、次に来たときにはしっかりと政治が判断できるようにしておいたらいじゃないですかということを申し上げた。んですが、残念ながら、慎重に、中身がよく分からないからということで、今日はもうこれ以上この件については追及いたしません。

[101118参院]

a～eいずれも問題点（確認したいことなど）を提示している。その中でbとdのワケダは、客観的事実であることを穏やかに述べている。cとeの

ノダは、主観的に強く主張している。aは「総理は起きていたと思っていた」ことをことさら提示し、結果的に「総理は寝ていた（＝聞いていなかった）」と皮肉っている。

宮沢氏の場合も、硬軟織り交ぜた語り方と言えらるだろう。とくに次のB型が押しの強い一方的な語り方であるのに比べて、このA型はそのような感じはしない。

ただし、坂口氏が「…んですけれども、…わけですから…」などと後へ続く表現が多いのに対して、宮沢氏は「…わけです。…んです。」などと言い切ることが目立ち、強弱のメリハリを感じる。同じ硬軟織り交ぜ型であっても、宮沢氏のほうが厳しい語り方である。

#### B型（ノダのみ高率）

ノダは、ワケダに比べれば主観的である。ノダを多用する語り方では、押しの強さが予想される。

例として、まず岡山県を地盤とする片山虎之助議員（たちあがれ日本）の発言を取り上げる。使用率の平均はノダが1.09と、かなり高い。ワケダは0.05で、かなり低い（表より）。下に引用した部分は、663字中に、ノダが6個（0.90）、ワケダが1個（0.15）で、氏の傾向を示している。

(6)早速質問を始めます。北朝鮮の砲撃事件など大変心配なことが起こっておりますけれども、やっぱり私は尖閣列島がまだ気になる。んです。前回に続いてその点を是非お伺いしたいと、こういうふうに思います。

この事件では、中国も大変厳しい国際世論にさらされました。日本と同じです。しかし、私は、中国はそれなりに納得しているんじゃないかと、こういうふうに思っております。というのは、我が国は領土問題がない。んですよ。中国は領土問題にしたかった。んですよ。領土問題にできた。んですよね。どうも、この事件が偶発的なのか意図的なのか、よく分かりません。分かりませんが、少なくともあのビデオを見ると、あの漁船のゆとりやあるいは挑戦的な態度から見ると、私は意図的な感じがしてしようがない。元々、中国は海洋進出、海洋権益の拡大というのは悲願ですから。そういう意味では、あれを我が領土と言いついてから、私は、かなり戦略的にいろいろなことをやったのかなと、こういう今気がしている。わけであります。

そこで、恐らく、どういう形か分かりませんが、同じような事件がこれから起こってくる、あきらめない限り。どういうふうに対応するか、これは危機

管理の問題でもありますが、この前も少し述べましたが、私はやっぱり実効支配を強化するしか仕方がないのではなからうか、しかもそれをなだらかにやっていくと、こういうことが必要じゃなからうかと思ってる、んです。実効支配しているんだからしょうがないかなと、仕方がないかなと中国に思わせる、こういうことがこれからの努力じゃなからうかと思う、んですね。[101126参院]

押しの強い、一方的な語り方である。自分の考えや注目すべき事柄を強く提示している。典型的なB型と言えよう。先にワケダに「説明」という語を使ったが、(6)に見られるノダについては「主張」という語を使いたい。“一方的に考えなどを言う”意である。

中でeだけワケダであるが、これは先の(4)のaと同じく、客体化し、間接化して、少しトーンダウンしていると考ええる。

もう一人、加藤紘一議員(自民党)を取り上げる。使用率の平均はノダが0.55と、片山氏よりは低いが、それでも平均よりはかなり高い。ワケダは0.02で、かなり低い(表より)。下に引用した部分は、559字中にノダが5個(0.89)、ワケダが0個(0.00)で、氏の平均より高いが、氏の語りの特徴を示しているとは言える。

(7) [長崎県知事選挙について。] そうです。私は政治と金だと思います。それで、選挙の神様、小沢一郎さんが行っても、政治と金のこのあらしはおさまらなかつた。そして、当人が行った、んだからさらに吹き荒れた。これはもう明確なことです。これは新聞にも書いてあるからもう言わない。

もう一つある。それは、私の見たところ、じげもんパワーという、んです。じげもんというのは、よく長崎に行ったら新聞に書いてあるから、どういうことですかと言ったら、地元の人間のこと。それはいいニュアンスの言葉かと聞いたら、いいニュアンスです。東京からいろいろな者が来た。橋をつくるだの、組合長だから集められて、水産庁長官が来るとか、物すごい権力を使った。よし、見せてやる。じげもんの気持ちを見せてやる。じげもんじゃなからんばわからんたいとか言っている。んです。じげもんでなければわからないんだ、この我々の気持ちは。そう言って、泣くように勝負していましたよ。

久方ぶりにいい選挙を見た。それは、いろいろな偉い人が行って、島原道路をつくるだの、いろいろなことを言う。水産庁関係では、何か冷凍施設をつくるの、マグロの養殖をやるだの、それも全部振り払って彼らは頑張った、んです。そして、地元の人

間の誇りをあらわした。んですね。そういうときには、東京から総理が言う地域主権なんという言葉がそらぞらしく聞こえる。[100302衆院]

aは、前の文で述べた事柄を問題点として提示している。b以降は、相手の知らないであろう事実(広い意味では問題点)を、次々に提示してゆく。片山氏ほど強烈ではないが、語り方としては同じ、押しの強い、一方的な主張と言ってよい。

以上B型の2名の語りを見た。このようなタイプは、(3)のデータからも予想されるが、質問者に多いのである(→5節)。

#### C型(ノダ・ワケダともに低率)

この型は、主観的に主張することも客観性を強調して説明することもない。一言で言えば、淡々とした語り方であることが予想される。

例としてまず、原口一博・地域主権推進担当大臣の発言を取り上げる。使用率の平均はノダが0.03、ワケダが0.03と、いずれも低い。下に引用した部分は、421字中、ノダ・ワケダいずれも0個である。

(8) [過疎法立法の方向性を聞かれて。] 平野先生にお答えいたします。平野先生の、誇りの持てる農林水産業の推進に取り組まれた御尽力にまず敬意を表したいと思います。

まさに、総合的な農山村振興の政策の実施は過疎対策の中心です。先ほど荒井委員にお答えをしましたが、私たちは、マニフェストと一体のインデックスにおいて、約六か所にこの過疎対策というのを、入れています。その中でもやはり一番必要なのは、よく財務大臣がおっしゃいますが、三位一体改革で、財政力が弱けりゃ弱いところほど余計ひどい財政の切り込みをされてしまっているということでございます。そして、この過疎債についてはソフト化に使いたい。

特に過疎地域で一番問題となっていますのは医療ですね。お医者さんがいらっしやらない。医療に使いたい、んだけど、今の、現行ではなかなか使えない。ですから、これを基金にして、そしてそれを後で七割の交付税で元利を償還するとか、そういう柔軟な更に拡大の方向でこの過疎債を考えていけたらと、このように考えております。[091106参院]

bに「んだけど」という形があるが、これは不特定者の発言のようで、引用と判断し、原口氏の言葉としては採らなかつた。

「思います」とか「～たい」などの形があるので、

自分の意見や願望も述べてはいるのだが、ノダやワケダによる強調を行なわない。例えば、もし過疎対策をしっかりやっていることを強調したいのであれば、aを「…過疎対策というのを入れているわけです」などと、ワケダを使って言うこともできるであろう。しかし、それをしない。A型やB型と比べれば、淡々とした語りと言えらる。前稿2011で述べたように、政権交代後の民主党政権では、このようなワケダの少ない語り方が増えたのである。

もう一人、松本龍・環境大臣を取り上げる。周知のように、氏は後の2011年6月末に復興・防災担当大臣に就任したのであるが、宮城県知事に対する暴言などが批判され、9日目に大臣を辞任した。2010年の環境大臣当時の発言について見れば、ノダが0.00、ワケダが0.02と、ともに低い（表より）。下に引用する部分は、603字中、ノダ・ワケダともに0個である。

(9)お答えいたします。アスベストにつきましては、今月の初めにたまたまテレビを見ておりましたら、三十年前に亡くなったあのスティーブ・マックインが中皮腫で亡くなったと聞きました。今、二十年～五十年と言われましたけれども、五十歳でありました。それだけ予後が悪いということで、大変な重要な御指摘だというふうに思っております。

再生砕石につきましては最上流で見なければならぬということ、一部の解体リサイクル現場においては管理が不徹底であることから、コンクリート等の資材にアスベストが付着、混入して、そうした資材を材料にして、原料にして再生砕石が製造されています。これらが駐車場等で利用されている例があることが今問題になっていると思います。混入防止のためには、解体現場において建設リサイクル法に基づく特定建設資材にアスベスト等の有害物質を含む建材が付着、混入することがないように、今おっしゃいましたけれども、分別解体を徹底すること。また、破碎施設においてアスベスト含有産業廃棄物が再生砕石等のリサイクル製品に混入することがないように、廃棄物の処理を行う際には廃棄物処理法に基づく処理基準を遵守することが必要であると思います。なお、現在、更なる利用実態といえますか実態把握のために、再生砕石を製造する破砕業者について各都道府県を通じ実情を把握しているところであり、調査結果を踏まえて適切に対処してまいりたいと思います。[101119参院]

この発言も、ノダ・ワケダによる強調がないという点では、淡々とした語り方である。下線部など、

問題点の存在を強調したいのであれば、「…問題になっているわけです」などと言うことができる。

また、文末が「思います」の連発で、単調である。この点も淡々とした語りに一役かっている。B型であれば（例えば(6)のf、gなど）、「思うんです」が混じるところである。

以上、C型が淡々とした語り方であることを見た。

#### D型（ワケダのみ高率）

この型は、客観性を強調して説明する語り方となることが予想される。

例としてまず、鹿野道彦・農林水産大臣の答弁を見よう。氏は、使用率の平均はノダが0.01、ワケダが0.32で（表より）、ワケダ使用率が全体の平均よりも高い。下に引用した部分は、390字中にノダが0個で、ワケダが3個（0.77）であり、氏の平均から見れば、ワケダの使用が強調された例とはなるが、D型の特徴を見るには適当であろう。

(10) [余った米を買い取る施策が必要ではないかと質問され。] この所得補償制度を導入することによって過剰作付は約八千ヘクタールほど減少している。わけでありまして、これはまさしく、この制度そのものに参加をしていただくというふうな意味がそこにも示されているのではないかと思っております。[質問者から、答弁の方向が違うと言われ。] 以前から御党からも、米を需給調整のために買い上げたらどうかというような、そういう考え方が示されてきた。わけでありましてけれども、基本的に今日の食糧法におきましては、お米の価格上昇のために買い入れるというふうな制度にはなっておらない。わけでありまして、あくまでもお米が不足した場合に備蓄用として買い入れる、こういうふうなことになっているということは委員御承知のとおりであります。そして、私どもとしては、この戸別所得補償制度というものは、下落した場合には、下落への対応というふうなものも、その中に下落分として設定されているというふうなことで御理解をいただきたいと思っております。[101109衆院]

aは、よい結果が客観的に存在することを強調し、反論している。bは、相手（＝自民党）の指摘したことについて、そのようなことが客観的にあったと、再確認している（「再確認」も、相手に認識させようとする点では提示の一種である）。cも、現行制度の在り方を再確認している。全体的に、説明しようという態度は見られる。ノダを使わない分、押しつけがましきはない。丁寧に説明しようとしている

ように感じられる。

さて、ワケダにも提示機能はあるので、質問者も使うことができる(拙稿2010)。ここでは例として、田中康夫議員(新党日本)の発言を見てみよう。氏の平均は、ノダが0.02、ワケダが0.29で(表より)、ワケダ使用率が平均よりも高い。下に引用した部分は、726字中にノダが0個で、ワケダが4個(0.55)であり、先の(10)と同じく、ワケダの使用が強調された例ではある。

(11)ところで、自治体の側は扶助費が高い高いと言っておりますが、なぜ具体的に悲鳴を上げないのかといいますと、国が四分の三を負担すると言っております。しかし、残りの四分の一も、これは交付税で全額国が負担をしている。わけでございます。そして、ケースワーカーの、福祉事務所の方々の人件費というのものも、これは国が全額を負担している。わけでございます。したがって、ある種のモラルハザードが起きてきてはいないかということです。

他方で、地域の民生児童委員の方々は生活保護の方々と向き合っておりますが、これらの方々はまさに無給な。わけございまして、こういう形で私が連載をしている雑誌や新聞に寄稿しましたところ、現場のはざままで苦しむケースワーカーや民生委員の方々から多くの賛同のお便りをいただきました。私は、やはり真っ当に働き、学び、暮らしている者がきちんと報われる社会にしなくてはいけないと思っております。そして、生活保護の方々は、残念ながら、収入がふえて翌年度に生活保護から脱却する方は、生活保護世帯全体の二、三%にすぎない。わけございまして。

ちょっとこの点をまず御認識いただいた上で、他方で、日本の人口というのは、皆さん御存じのように、二〇五五年には九千万人と、今から三千万人減少すると厚生労働省が述べております。そういったしますと、一年間に約八十八万人ずつ人口が減少しますので、二十三区で一番大きな世田谷区の八十六万人の人口よりも多くの人口がこれから急激に減少していく。すると、逆ピラミッド構造でございますから、百年安心年金などというものは、旧与党の方々がおっしゃったのが間違いであったと同様に、これから年金のシステムというものを抜本的に変えなくちゃいけないと思っております。[101109衆院]

「でございます」とともに使われているので、丁寧な、上品な(女性的な?)語り口となっている。それはともかく、a~dいずれも問題点を提示している。ノダで強烈に提示するよりも、穏やかで押し

つげがましくない。相手に理解してもらおうとする“説明”である。

以上、D型は、穏やかに丁寧に説明しようとする語り方である。

## 5. おわりに

以上、国会議員の語りを四分類し、それぞれの特徴を考えた。簡単にまとめれば、A型は硬軟織り交ぜた語り方、B型は一方的に主張する語り方、C型は淡々とした語り方、D型は穏やかに丁寧に説明しようとする語り方である。

ノダとワケダの用法についてまとめれば、ともに事柄を提示する用法があるが、ノダは主観的に一方的に主張するのに対し、ワケダは客体化して穏やかに説明する。

最後に、型別に質問者/答弁者の数を出して見よう。すべての議員を単純に平均値よりも上か下かでA~D型のいずれかに所属させると、(12)のようになる。

(12)型ごとの質問者/答弁者数

型	質問者	答弁者	計
A	19	1	20
B	27	1	28
C	10	20	30
D	13	7	20
計	69	29	98

B型は、質問者が多いことが確認できる。逆に質問者から見てもB型が一番多い(39%)。また、A型も質問者が多いが、ノダを多く使う点はB型と同じである。つまり、先述したように、国会討論においてはノダを使って質問するという傾向があるのである。しかしワケダについては、あまり明確なことは言えない。答弁者はワケダの少ないC型が多いし、ワケダの多いD型には質問者も多く含む。ただ、答弁者の中だけでみれば、D型が二番目に多く、答弁者はワケダを使うという傾向が少し見られるのである。

以上、ノダとワケダの使用率によって、国会議員の語り方を特徴づけてみた。一つの観点だけで十分な文体分析(語り方の分析)を行うことは無理である。しかし主張や説明など、討論における重要な要素を観点としたことで、少しは興味深い分析となったと思う。



引用文献

- 寺村秀夫1984『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編2003(野田春美他執筆)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 野田春美1997『「の(だ)」の機能』くろしお出版
- 松岡 弘1987「『のだ』の文,『わけだ』の文に関する一考察」『言語文化』24, 一橋大学
- 同 1993「再説一『のだ』の文・『わけだ』の文」『言語文化』30, 同上
- 松田謙二郎編2008『国会会議録を使った日本語研究』ひつじ書房
- 宮崎和人・野田春美他2002『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版
- 伊土耕平2010「ノダとワケダ—国会討論における分布—」『岡山大学 国語研究』24
- 同 2011「国会討論におけるノダとワケダ」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』147